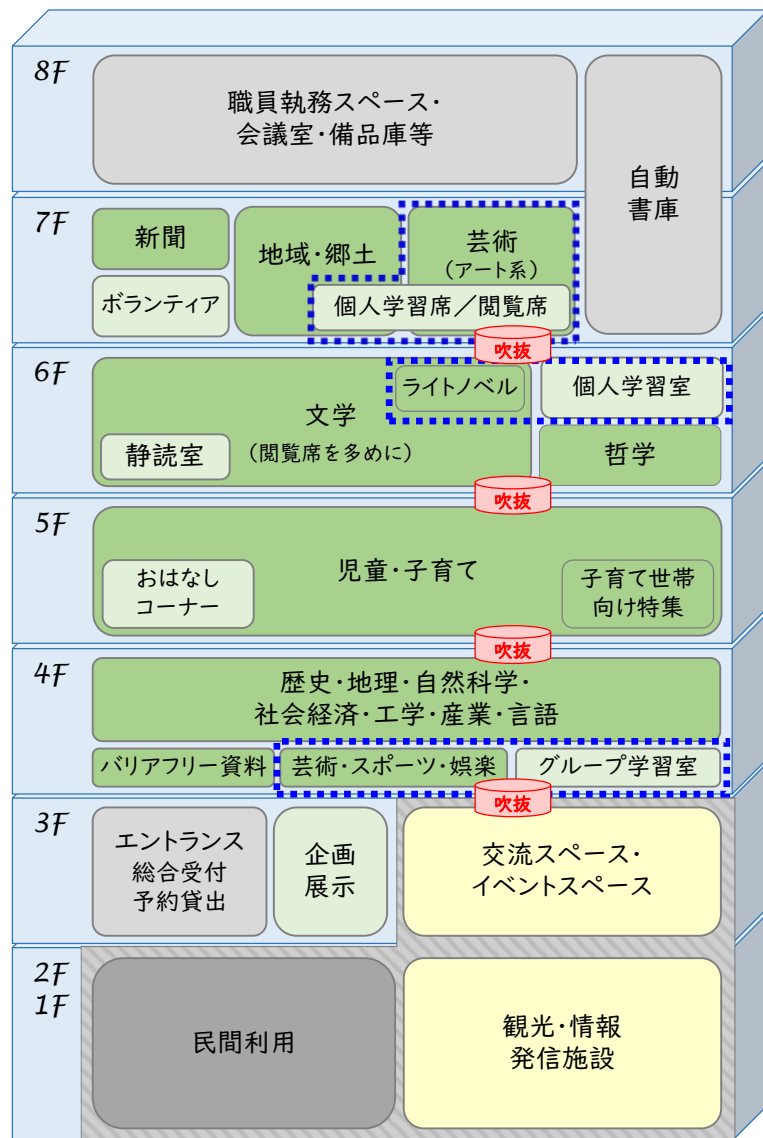


A 案



フロア構成の考え方

☆基本的には下から上に向かって、動(賑やか)→静(穏やか)になっていく流れ。
⇒特に下層階(3～4階)の賑わいの連続性を重視。

☆若年層向けのまとまったコーナーづくりはしないが、雰囲気異なる居場所づくりをする。
⇒4F:アクティブ系／7F:文化芸術系／6F:読書と自習 (※左図中 で囲った部分)

☆各フロア間に吹抜けを設け、開放感と、全体のつながり感に配慮。
(ただし、座席や書架のための床面積が減ることにもつながる。)

※館内の上下移動の手段として、階段、エスカレーター、エレベーターを設置。
※各階にそのフロアにある本と関連するミニ展示を行うコーナーを配置。

【7階】 郷土とアートのラウンジ

- ・地域・郷土資料とアート系の図書に囲まれる、ゆったりとした空間。
- ・地域学習など調べ物ができる机+椅子のタイプの席と、リラックスしてくつろぐタイプの席(ソファなど)が両方あるイメージ。

【6階】 読書と自習のフロア

- ・落ち着いて読み物に触れるフロア。
- 仕切られた静読室のほか、オープンなスペースにも閲覧席を多めに配置。
- ・自習にも使える、仕切られた「学習室」も用意。

【5階】 児童と子育てのフロア

- ・児童書のフロアは一定の音を許容する前提。
- ・子どもを見守りながら保護者が読めるものとして子育て世帯向けに発刊されている図書(育児関係、進学案内、ファミリー向けお出かけ情報誌等)も配架。

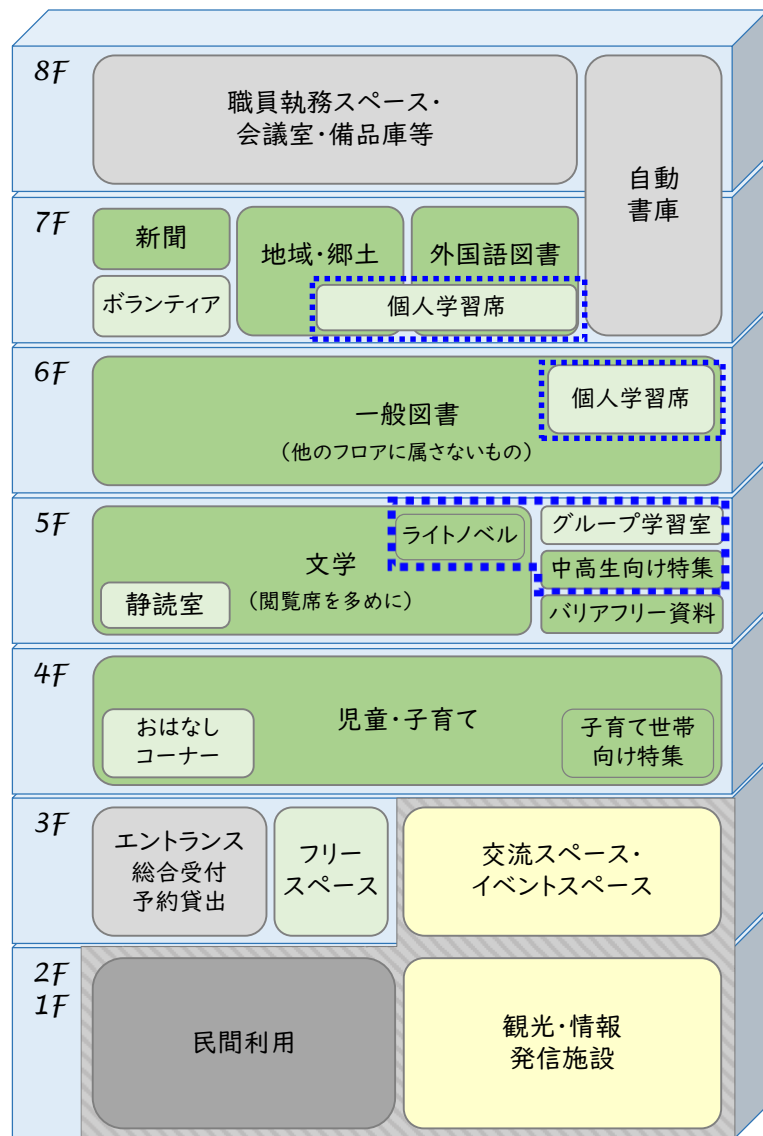
【4階】 一般図書のフロア

- ・音を許容するフロアと位置づけ、グループ学習室を配置。
- ⇒グループ学習の素材となり得る、学習要素を含むジャンルの図書を配架。
- また、アクティブな趣味・趣向のジャンルの図書を配架。

【3階】 エントランス・フロア

- ・館全体の入口となる総合受付と併せて、予約本の受取コーナーを設置。
- ・その時々世間の話題に関連する書籍・資料等の特集した企画展示を展開。

B 案



フロア構成の考え方

☆基本的には下から上に向かって、動（賑やか）→静（穏やか）になっていく流れて、かつ、子どもから成人への段階的な成長の流れに沿った展開。

☆若年層向けの図書や機能を集めた「ティーンズコーナー」を5階に配置。
そのほか、6・7階にも個人学習席がある。 （※左図中 で囲った部分）

☆少しでも多く、座席や蔵書数を確保するため、吹抜けは設けない。
（ただし、各フロア間のつながりが希薄となり、空間として開放感に欠ける。）

※館内の上下移動の手段として、階段、エスカレーター、エレベーターを設置。
※各階にそのフロアにある本と関連するミニ展示を行うコーナーを配置。

【7階】 学び・調べもののフロア

- ・地域資料や外国語図書など、利用目的が比較的明確に絞られる資料を配置。
- ・学習や調べ物に適した、机+椅子の席が、オープンな空間にあるイメージ。

【6階】 一般図書のフロア

- ・他のフロアに属さない一般図書を配架。
- ・学習や調べ物に適した、机+椅子の席が、オープンな空間にあるイメージ。

【5階】 読み物とティーンズコーナーのフロア。

- ・ライトノベルから本格小説まで「読み物」をまとめて配架する考え方。
（中高生も本格小説を、大人もライトノベルを気軽に手に取れるように）
- ・仕切られた静読室のほか、オープンなスペースにも閲覧席を多めに配置。
- ・中高生の居場所として、その年代に向けて書かれた本を集めたコーナーや、グループ学習室を同じエリアにまとめて配置。

【4階】 児童と子育てのフロア

- ・児童書のフロアは一定の音を許容する前提。
- ・子どもを見守りながら保護者が読めるものとして子育て世帯向けに発刊されている図書（育児関係、進学案内、ファミリー向けお出かけ情報誌等）も配架。

【3階】 エントランス・フロア

- ・館全体の入口となる総合受付と併せて、予約本の受取コーナーを設置。
- ・自由な居場所空間としてフリースペースを配置。